北國新聞（夕刊）

2009年（平成21年）5月22日（金曜日）

充実した2年 再建に感慨

地震で全壊 門前・興禅寺

住職、県内外で托鉢

能登半島地震で全壊した輪島市門前町走出の曹洞宗興禅寺が再建され、二十二日、同寺で完成式が行われた。震災以来、石川県内外を托鉢に回った市堀玉宗住職（五三）は「自分の生き方を問われ、充実した二年間だった。多くの人に支えられ、うれしさともったいなさが込み上げてきた」と感慨に浸った。

約五百五十年の歴史を誇る興禅寺は、二〇〇七（平成十九）年三月の地震で山門を残して本堂、庫裏が全壊。市堀住職は同年六月から托鉢に回り、一万人近くに浄財を募った。ほかに全国の約三千人からも支援金が寄せられた。

完成した本堂は、以前の約百三十坪から約八十坪と小さくなったが、総工費約一億円で一年前から再建工事が進められ、完成にこぎつけた。

式には、檀家ら約五十人が参列。總持寺祖院の僧侶が般若心経を唱える中、市堀住職が本堂完成を歴代の住職らに報告。式の後、市堀住職が「寺は少しでも仏の方を向いて行こうという人のためにある。その心を大事にして寺づくりに励みたい」とあいさつすると、参列者は静かに手を合わせて祈った。

完成式であいさつする市堀住職＝22日午前10時10分、輪島市門前町走出

この日は、昨年六月に宗派を超えて結成された「災害ボランティア支援友の会」会長の山下良演高野山真言宗来迎寺名誉住職も出席。真宗大谷派の僧侶、NPO法人レスキューストックヤード（名古屋市）のメンバーも駆け付け、参列者に豚汁を振る舞った。

今後は全国の被災地支援に取り組む一級建築士・曽弘利さん（神戸市）らの支援で東屋の建設、新潟県中越地震で被災した旧山古志村（現長岡市）の養鯉業田中重雄さんが育てたニシキゴイを泳がせる池の整備も予定され、十月に落慶法要が行われる。

神戸から足湯ボランティアも訪れる計画だったが、新型インフルエンザの影響で中止となった。

完成した興禅寺＝22日午前11時